

120トンでも割れない強化型プラスチック敷板® こうじばん

仮設工 その他 KT-150063-VR 本誌 P244掲載

株式会社 こうじばん

軽量、超硬質、立体的滑り止めを有した強化型高密度ポリエチレン製敷板



▶耐荷量120トンの熱射対策用ベージュ色

軽量・超硬質の 強化型プラスチック敷板

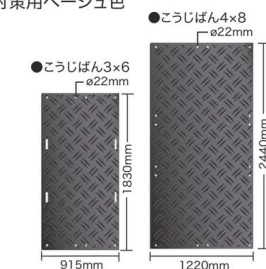
土木・建築問わず、工事現場に欠かせない資材の一つとして、敷鉄板がある。軟弱地盤の足場確保や、作業場内の路面養生、資材搬入路の確保など、用途は多岐にわたる。

このように有用な敷鉄板だが、鉄製故に、重い。一般的な規格である4×8(1220mm×2440mm)板厚19mmの場合で重量は500kg程ともなる。当然ながら人力では運べず、ユニック車で運搬し、クレーンで1枚ずつ敷設することが多い。運搬にあたって、4tユニック車であれば積載荷重は3t弱のため、5,6枚しか一度に運ぶことができず、必要枚数を敷設するためにはピストン輸送や複数枚台での運搬が必要だ。運搬や敷設の手間とそれに伴う費用は

現場の担当者を悩ませている。

株式会社こうじばんの「こうじばん」は、従来の敷鉄板に代わる製品として開発された、強化型プラスチック敷板である。最大の特徴は、軽量・超硬質を兼ね備えていることだ。1枚あたり39kgと軽量であるため、人の手で敷くことができる。一般的な敷鉄板の1/10以下の重量を実現しており、1台のトラックで大量輸送することも可能だ。軽い樹脂製となると強度が心配になる方もいるかもしれないが、こうじばんはプラスチック製でありながら120トンの耐荷重があり、大型トラックが載っても割れることがない程、十分な強度を有している。

こうじばんは、コンピューター制御の最新1000tプレスで1枚1枚を型圧縮製造している。材料の樹脂が型のなかで型の隅々まで均等に圧縮され、完成した敷



板に気泡や層ができることがないため、超硬質な本格的プラスチック敷板を実現した。軟弱地盤でも凹みが少なく、高い走行安定性を提供する。

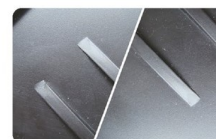
材質は再生材ではなくバージン材のため試験結果が高いレベルで一定している。かつ、押出加工ではなく型圧縮製造しているため試験結果は敷板全体を通して均一である。

▶軟弱地でも安定した走行が可能



高品質なこうじばん、 その技術

敷鉄板と比較して軽量の製品だが、ズレる心配はないのだろうか。その点、こうじばんは立体的すべり止めを配置することでズレを防止している。高さが8mmあり極めて高いすべり止め効果を得られる山型と、歩行者やコンクリート、アスファルトと言った舗装にも優しいクロス型の2種類があり、用途に応じて両面のすべり止めの構成を3つのタイプから選択することができる。両面に配置されたすべり止めは、タイヤのスピンや敷板自体のズレを防止するのに効果的だ。



▶山型/山型タイプ



▶山型/クロスタイプ



▶山型/フラットタイプ



こうじばんは、アメリカのダラスに本社を置くプラスチック敷板メーカーとして世界最大のSignature社製である。原材料は、ダウ・ケミカルやエクソンモービルといった国際評価の高い樹脂メーカーから調達している。最高品質の証「高密度ポリエチレン」を採用しており、プラスチック以外の石や木といった混ぜ物をしていないため、長年の使用に耐える極めて低い劣化度と極めて低い摩擦度の両立を実現した。

海外製品だと気になるのは納期の関係だ。有用な製品であってもすぐに入手できなければ利用しづらいが、こうじばんはその点も心配無用。アメリカからコンテナで輸送した製品を横浜倉庫、大阪倉庫、仙台倉庫に在庫として豊富にもつことで全国への即納体制を整えている。

国内外で豊富な 使用実績

こうじばんは、軽量・超硬質の強化型プラスチック敷板として、国内はもとより、海外でも豊富な使用実績がある。一部の例を紹介すると、全国各地の建機レンタル会社、ゼネコン、建設・土木会社等で使用され、海外ではロンドンオリンピック委員会が採用し、関連工事で2万7千枚が使用された。他にもインドネシア津波救済、ハイチ地震救済関連工事やアメリカ軍での採用実績もある。

建設業界の担い手不足を解消するためにも、工事現場の省力化、環境改善は急務である。軽量で運搬・敷設がしやすく、使用することで様々なメリットがある「こうじばん」。年々活用の幅が広がっているようだ。

こうじばん® 公式サイト

www.koujiban.jp

こうじばんの性能紹介動画は、このサイト上で確認できる

